

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【東牟婁振興局】重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】
～“まりひめ”の高品質多収栽培研修（第2回イチゴセミナー）を開催～

令和5年7月号

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. ももの枝変わり（突然変異はチャンス！）	
2. 和海地方4Hクラブの活動をSNSで情報発信中	
II 那賀振興局	2
1. 岩出小学校で「ももの出前授業」を実施	
2. 那賀地方いちご生産組合連合会総会・研修会を開催	
III 伊都振興局	3
1. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会及び栽培講習会の開催	
2. 令和5年度わかやまスマート農業実演会「伊都会場」を開催	
IV 有田振興局	4
1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催	
2. JAありだ蔬菜部会きゅうり部門が県外研修を実施	
V 日高振興局	5
1. 日高地方農業改良普及推進協議会令和5年度総会を開催	
2. ニューファーマーズ激励会・交流会を開催	
VI 西牟婁振興局	6
1. すももジョイント栽培実証圃の収穫調査を実施	
2. 農業士会女性部会がうめの出前授業を実施	
VII 東牟婁振興局	7－8
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 「まりひめ」の高品質多収栽培研修（第2回イチゴセミナー）を開催 ～みくまの産地協議会が第1回UIターン就農相談フェアに出展～	
2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催	
3. アブラナ科野菜の根こぶ病簡易生物検定研修を開催 ～管内9農家の検定も併せて実施～	
VIII 農林大学校	9
1. 1年生の農業体験研修	
2. 1年生、2年生ともに県外研修へ	

Ⅸ 農林大学校就農支援センター

10

1. 令和5年度第1回UIターン就農相談フェアを開催

I 海草振興局

1. ももの枝変わり（突然変異はチャンス！）

海草管内のもも園で、枝変わりが発見された。果実は親品種に比べて着色が早く、「白鳳」収穫期の7月中旬に熟期を迎え、食味が良好になるのが特徴。

7月13日にJAの出荷場に生産農家、JA職員、振興局担当の総勢8名が集まり、果実の確認と試食を行った。持ち込まれた果実7果は色づきが良く果実重は300gを超え、糖度は12~13%であった。参加者から出た意見は以下のとおり。

「白鳳」の時期に出るものと思われるが、果実の確認は今回が初めてで有望性についてはまだ判断できない、「晩生種からの枝変わりで、特性が安定していれば面白い」、「この枝変わり種の今後の展開については、品種登録をする、あるいは登録をせずに独自のブランドをつくっていくなどの方法が考えられる」、「いずれにせよこの枝変わり種の特性や安定性を知る必要がある、これから数年かけて観察や記録が必要だ」、「枝変わり発見者として、今後は観察や記録をするが、具体的に何をすれば良いのか教えてほしい」等々……枝変わり発見が農家を意欲的にさせ、次になすべき事を考える契機となった。このムーブメントがももを実らすだけでなく、成功の果実となることを願う。



枝変わり種の果実

2. 和海地方4Hクラブの活動をSNSで情報発信中

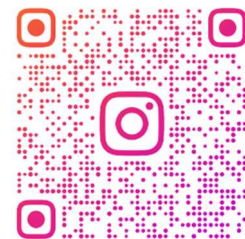
和海地方4Hクラブでは、今年度からインスタグラムを活用して情報発信を始め、毎月1回の定例会の様子や、クラブ員の日々の活動などを発信している。今年度特に目玉となるのが、農村都市青年交流会に向けた情報発信である。この交流会は、毎年実施しており、農業青年と都市や地域の女子青年がともに、地域農産物や伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力や農業・農村生活に対する理解と関心を深めるとともに、地域農業の後継者と消費者の環を生み出すことを目的としている。

今年度は、2回（10月、3月）予定しており、第1回目は10月28日（土）（予備日は11/4（土））開催予定である。最近新たにオープンした地域のキャンプ場での交流と、みかんの収穫体験を予定しており、楽しいイベントとなるよう企画中である。

都市や地域の女子青年に広く情報を届けるため、9月までにフォロワー1,000人を目指している。今後随時投稿予定のため、可能であれば、フォローいただき、情報拡散にご協力をお願いしたい。



定例会



和海4Hクラブ (@wakai4h)
QRコード
※スキャンしてください☆

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出小学校で「ももの出前授業」を実施

7月11日、農業水産振興課では岩出市立岩出小学校の6年生57名を対象に、ももの出前授業を行った。この授業は、児童達が県産果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛、食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

始めに、南方普及指導員がももの品種や花、果実についてクイズを交えながら説明した。

続いて、あら川の桃推進協議会 優良品種検討専門委員の山内 勸氏が、『枝切り』や『蕾取り』など、児童達にも分かりやすい言葉を用いてももの栽培について解説し、最後に「それぞれの農家が栽培方法を工夫して、より美味しいももを作ろうと努力しています。ぜひ美味しいももを食べてみてください」と締めくくった。また、クビアカツヤカミキリについての情報提供も行った。

出前授業の後、児童達は一人一つずつももを受け取り、自分の机でももの絵を描いた。



ももの栽培について解説する山内氏



ももの絵を描く児童

2. 那賀地方いちご生産組合連合会総会・研修会を開催

7月24日、那賀地方いちご生産組合連合会は、那賀振興局において令和5年度総会及び研修会を開催し、会員等30名の出席があった。

冒頭、宇野会長から4年ぶりの対面開催になったこと、また、令和4年産いちごは二度の降雪被害により例年の8割程度の生産量であったことなどの話があった。

総会では、会費の引き上げや役員改選方法の見直し等の議案が全会一致で承認された。また、今年度から会員向けに花芽検鏡研修会を開催して農家の技術向上に取り組む他、秋ランナー採苗実演会を開催するなど、精力的に活動を行っていくこととなった。

研修会では、県農業試験場の小川主任研究員から、「イチゴ栽培での環境モニタリング利用事例～CO2施用の効率化～」と「「まりひめ」栽培におけるCO2施用時の時期別変温管理」の2題について説明があった。近年、いちご生産者を中心にハウス内環境制御が広がりつつあり、参加者は熱心に説明を聞いていた。最後に、紀の川市農業振興課の瀧本副主査からいちご農家として就農を目指す研修プログラム『紀の川アグリカレッジ』の取組紹介があり、今回入会した一期生5名、及び来年度入会予定の二期生3名が各々自己紹介を行い閉会した。



講師による講演

Ⅲ 伊都振興局

1. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会及び栽培講習会の開催

伊都地域では、平成 31 年 3 月に高野山麓農産物産地化協議会（橋本市、橋本市農業委員会、J A 紀北かわかみ、農業者、農産物販売業者、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）を設立し、高野山麓精進野菜としての栽培基準を設け地元野菜のブランド化に取り組んでいる。

7 月 13 日、橋本市役所において高野山麓精進野菜栽培講習会を開催し、新規栽培希望者 4 名が参加した。はじめに、橋本市農林振興課秋山課長補佐から高野山麓精進野菜の定義やコンセプトについて説明した後、農業水産振興課山田主査から栽培方法や農薬肥料の基準について説明を行った。参加者からは、「一度基準に沿って高野山麓精進野菜として作ってみたい」、「資料に記載している高野山麓菌体資材を使ってみたい」といった意見があった。



栽培講習会の様子

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。

2. 令和 5 年度わかやまスマート農業実演会「伊都会場」を開催

7 月 26 日、県研究推進室主催によるスマート農業実演会を御所観光組合で開催し、スマート農業の導入に意欲のある農業者や J A、県関係者 36 名が参加した。

伊都会場では、小型無人 SS や農業用無人車、ラジコン式草刈機、一輪車電動化キット、アシストスーツの 7 社 8 機種について、各メーカー担当者から機器の説明及び実演が行われた。その後、会場内で機種ごとに分かれ、参加者による操作体験が行われた。

農業無人車やラジコン式草刈機については、参加者から「思ったより操作が簡単」、「あれば便利」などの意見があったが、導入に関しては「もう少し価格が安ければ」とのこと。一輪車電動化キットやアシストスーツについては、すでに導入済みの参加者もあり、導入により「作業が楽になった」とのことであった。

引き続き、スマート農業技術の導入により省力・軽作業化を目指す農業者に対し、実演会などの機会を通じて情報提供を行っていく。



農業用無人車の説明



一輪車電動化キットの実演

IV 有田振興局

1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催

7月4日、有田振興局において有田農業技術者会の総会を開催した。本会は、有田地方の農業の発展、地域振興に寄与することを目的として、果樹試験場、JAありだ、農業共済、土地改良区、近畿大学附属農場、有田中央高校、農業水産振興課の農業関係機関から構成（会員数66名）されている。

総会では、令和4年度の事業報告、会計報告に加え、令和5年度の事業計画案、予算案、新役員案が承認された。また、会長にJAありだの中井氏、副会長に当課の古田普及指導員が選任された。

研修会では、近畿大学附属農場を見学し、津本技術主任から農場で育成されたマンゴー「愛紅」の栽培ハウスや柑橘類の遺伝資源保存ほ場の案内と説明を受けた。

本会では、今年度も温州みかんの土壌水分調査、チャノキイロアザミウマやカメムシ類の予察調査を実施し、有田地域の農業現場へ情報提供を行っていく。



総会の様子



研修会（マンゴー栽培ハウスの見学）

2. JAありだ蔬菜部会きゅうり部門が県外研修を実施

有田川町金屋地区の中山間地域では柑橘や山椒等との複合経営品目として露地きゅうりを生産している。7月25日に楠普及指導員引率のもと、部門員を代表して役員2名とJAありだ職員2名が、夏秋きゅうりの特定指定野菜産地である京都府宇治田原町で現地研修した。

山城北農業改良普及センター西畑普及指導員、JA京都やましろ下司きゅうり部会長、西川営農指導員から以下について説明を受けた。特産であるお茶との複合経営品目として、お茶の作業が一段落した6月上旬から定植が始まり、10月中旬まで栽培する作型が中心。水田地帯に点在している圃場を中心に、1戸当たり5aを栽培し、京都中央市場へ出荷している。アーチパイプを使ったうね幅3.15mの2条植、株間は1.0m、主枝と側枝2本の3本仕立てで、有田地域の垣根仕立てとは異なっていたが、丁寧な摘葉やかん水等の徹底した栽培管理について、今後の栽培の参考になる研修となった。今回の研修内容については部門員へ報告する予定である。



研修の様子

V 日高振興局

1. 日高地方農業改良普及推進協議会令和5年度総会を開催

7月12日、日高地方農業改良普及推進協議会（会長：和佐憲道氏）は、令和5年度総会を開催し会員19名の出席があった。

議案審議では、令和4年度事業報告、収支決算報告及び令和5年度事業計画（案）、収支予算（案）ともに原案のとおり承認された。また、役員改選が行われ、現会長の和佐氏が留任となった。

総会終了後、振興局職員より普及計画の重点課題である「梅産地の競争力強化と労働力の確保対策」について、令和4年度の活動実績と令和5年度の活動状況を説明した。出席者からは、クビアカツヤカミキリ対策について質問があった。



会長挨拶



普及計画報告

2. ニューファーマーズ激励会・交流会を開催

7月24日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：尾曾 匠氏）主催の「ニューファーマーズ激励会・交流会」が開催され、クラブ員13名が新入クラブ員5名をクラブに迎え入れた。

まず、会長と副会長が新入クラブ員に対して「日高農業をともに盛り上げていこう」と激励の言葉を贈った。続いて、出席者全員が自己紹介をするとともに、今後の農業に対する抱負を述べた。

その後、会員相互の親睦と交流を目的に、ボウリング大会と交流会が開催された。新入クラブ員からは「激励会に出席して、学習活動や会員の交流活動、地域を巻き込んだ各クラブの活動など自由度の高い取組みがなされていることに驚いた。自身も活動に積極的にかかわりたい」との前向きな感想があった。また、会長からは「3年ぶりに激励会を通常開催することができ、クラブ員同士が直に顔を合わせ交流したことにより、親睦がより深まった」との意見があった。



クラブ活動の紹介をする副会長



クラブ員集合写真

VI 西牟婁振興局

1. すももジョイント栽培実証圃の収穫調査を実施

すももの早期成園化及び管理作業の省力化対策として取り組んでいるジョイント栽培実証ほ（品種：「太陽」（5年生樹）、場所：田辺市新庄）の収穫調査を7月21日、25日に行った。今年度は、適切な摘果程度を確認するため、各樹の3年枝において、強摘果区（15cm間隔に1果）、中摘果区（10cm間隔に1果）、弱摘果区（5cm間隔に1果）の3処理区を設置した。

果実肥大及び果実重は、各区で大きな差は見られず、L級中心のやや小玉果傾向であった。

果実肥大の促進を期待した強摘果区でも大玉果とならず、収量の増加も期待できない結果となった。次年度は樹全体で摘果程度を調整し、早期成園化技術の確立を目指す。



収穫調査

2. 農業士会女性部会がうめの出前授業を実施

7月25日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：武森直子氏）は、四天王寺小学校（大阪府藤井寺市）において、2年生の児童50名を対象に、「うめのお話」と「うめシロップづくり体験」の出前授業を行った。昨年実施したところ、子供たちに好評であったこともあり、今年もサマースクールの一環として要請があった。

「うめのお話」では、竹内明子前副部会長が、パワーポイントを用いてうめの花や成長する様子、うめ畑での作業、うめ干しができるまでの作業等をわかりやすく説明した。続いて、武森部会長がうめシロップの作り方を実演し、児童たちも冷凍うめと氷砂糖を使って体験した。また、持参したうめシロップを冷水で割り、うめジュースの試飲も行った。さらに、うめ料理のレシピや個包装のうめ干しを配布し、田中直美前部会長から、うめを使った料理やうめシロップを牛乳で割る「うめラッシー」を紹介した。

児童たちは興味津々で、意見や質問が相次いだ。



うめシロップ作成の実演

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】 「まりひめ」の高品質多収栽培研修（第2回イチゴセミナー）を開催

7月5日、那智勝浦町宇久井の休暇村南紀勝浦において、那智勝浦町苺生産組合（会長：栗野稔近氏）の第53回総会及び研修会（第2回イチゴセミナー）が開催された。

当日は会員13名と来賓、関係者が出席した。栗野会長による挨拶と那智勝浦町の堀町長とみくまの農業協同組合の石田代表理事組合長の祝辞の後、表彰式では、販売額などに応じ、優秀な成績の会員に対し賞状が授与された。

コロナ禍で4年ぶりに通常の形で開催された総会では事業報告、事業計画(案)などが承認された。役員改選では、松出真紀氏が新会長に選任された。

総会終了後、県農業試験場栽培部の東部長から「「まりひめ」の品質安定化のためのCO2施用と時期別変温管理技術」、「「まりひめ」の安全性の高い親株育成」の2課題について研修会（第2回イチゴセミナー）が開催された。東部長は、「まりひめ」はブランド化され高単価で取引されているが、時期によっては糖度にバラツキがあることを強調した。増収や品質向上技術として、光合成促進のために、CO2施用機の導入など説明があった。



研修会第2回イチゴセミナー

～みくまの産地協議会が第1回UIターン就農相談フェアに出展～

7月16日、第1回UIターン就農相談フェアが和歌山県JAビルで開催された。出展したみくまの産地協議会のブースには4組6名が訪れた。

今回は「新宮、那智勝浦でいちごの新規就農者を募集」という当協議会の産地提案書に該当する相談はなかったものの、村畑・坂井普及指導員より各相談に応じた営農形態の説明を行った。

さらに、JAみくまのトレーニングファーム笹市場長は、農業の基礎を修得できる研修内容を説明した。

なお、一昨年の相談者（大阪府からのIターン者）は、産地面談会を経て、当協議会研修を本年8月に終了し、9月からいちご主体とした就農予定である。



みくまの産地協議会での就農相談

2. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

7月3日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）は、総会及び現地研修会を開催した。くろしお熊野やさいグループ代表者（生産者）、市場関係者、JAみくまの職員、市町村職員、農業水産振興課併せて18名の出席があった。総会では、冒頭に小田会長から「地場産青果物の取扱量は、年々減少している。協議会内の関係機関が連携して、安定供給を目指したい。」と挨拶があった。引き続き、令和4年度事業報告、収支決算、令和5年度事業計画について審議され、すべて承認された。

現地研修会として、なす、オクラ、とうもろこしの栽培ほ場に移動した。現地では、坂井普及指導員から、地域の栽培の歴史や概要について説明を行った。さらに「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」の品目とうもろこしにおける生分解性マルチの被覆栽培方法等（令和5年から取組）について参加者と栽培者で質疑応答があった。



現地検討会（とうもろこし）生分解性マルチ実施状況

3. アブラナ科野菜の根こぶ病簡易生物検定研修を開催

～管内9農家の検定も併せて実施～

農業水産振興課は、たかな、ブロッコリー等のアブラナ科野菜に被害を及ぼす根こぶ病の発生程度を調べ、次作の対策を立てるために、6月28日と7月27日に新規就農者（JAみくまのトレーニングファーム修了者）と同ファーム研修生、2名を対象に根こぶ病簡易生物検定研修を開催した。管内でアブラナ科野菜を栽培している9農家の土壌を検定した。

6月28日は、JAみくまの営農経済センターにて、坂井普及指導員が研修生に根こぶ病の特徴や簡易生物検定の手法、防除方法等を説明した。その後、前処理として9農家から採取した土壌を希釈調製し、セルトレイへ充填した後、検定体として罹病性はくさいを播種した。

7月27日は、結果確認として、研修生は、検定土で1ヵ月育苗したはくさいの苗をセル単位で抜き取り、根を洗浄し、根に形成されたこぶの状態を発病指数に基づき菌密度を推定した。

後日、坂井普及指導員より、根こぶ病菌密度に応じ、排水対策としての高畝栽培や酸度矯正としての石灰資材施用、土壌消毒剤施用など防除対策を調査対象農家に巡回等で指導した。



根こぶ病の判定（7月27日）

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生の農業体験研修

1年生（11名）は、農業に対する理解と自信を深めることを目的に、7月3日から7日の5日間、農家宅において農作業を体験した。

研修は本校を卒業した県内の先輩農家が受け入れ先となり、除草や摘果、播種などの管理作業に加え、収穫、出荷調整方法等の指導を受けた。また、作業のコツやペース配分を考えること、農業者間の交流の必要性など、先輩農家の取り組みを学ぶことができ、有意義な農業体験ができたとの感想であった。

5日間という短い期間ではあったが、今回の研修を通じて、農業の大変さだけでなく今後活かせる技術や知識等を学ぶことができ、充実した研修となった。



先輩農家から指導を受ける学生



研修先で農作業に取り組む学生

2. 1年生、2年生ともに県外研修へ

各学年の県外研修をそれぞれ実施した（1年生は7/20～7/21、2年生は7/19～21）。

1年生が訪れた日本農薬総合研究所では、一つの農薬が開発から販売されるまでに多くの労力がかかることに学生達は驚くとともに、校内で使われている「フェニックス」といった農薬がここで開発されたことにも感銘を受けていた。また、三重県農業研究所では大規模施設栽培の見学やいちごの種子繁殖型品種などについて説明を受け、県外の試験研究の取組について理解を深めた。

2年生が訪れた愛知県のイノチオファームでは大規模なミニトマトの施設が環境制御装置を使い、GlobalG.A.P. 認証取得農場として運営されていることに感心していた。

県外での先進的な取組を学ぶことで、校内での実習や講義の意義についてさらに認識を深めることができた。



三重農業研究所で種子繁殖型イチゴ品種を見学（1年生）



イノチオファーム見学（2年生）

IX 農林大学校就農支援センター

1. 令和5年度第1回UIターン就農相談フェアを開催

7月16日、和歌山県JAビル（和歌山市）で第1回UIターン就農相談フェアを開催した。

今回、県相談ブースをはじめJA関係、各市町、わかやま移住定住支援センターなどを含む、13団体16個の相談ブースを設け、県内外から23名の相談者が参加した。相談者からは「農地を借りたいがどうしたらよいか」、「栽培技術は何処で学べるのか」、「どのような補助金があるのか」などの質問が寄せられた。

また、相談フェアと同時に新規就農セミナーを開催した。過去に就農支援センターの研修を修了し、白浜町で野菜と花きを栽培されている方を講師に招き、“就農までの経緯”、“就農して良かったこと・苦勞したこと”などについて話を聞いた。参加者からは「これからの就農に向けて良い話が聞けた」などの声が聞かれた。

今年度は、同フェアをあと2回（11月12日、2月18日）JAビルで開催する。



相談ブース



新規就農セミナー

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489